

「唯一の正しい武器は政治である」

ヴィンチェンツォ・パリア大司教（教皇庁生命アカデミー会長）

**Mons. Vincenzo Paglia, *La politica è l'unica arma giusta.***

**Il Riformista, Martedì 15 marzo 2022, p. 3.**

爆弾を止めることのできる唯一の武器がある：政治を求めること。

—教皇フランチェスコの叫びは単なる戦争反対の叫びではない。

交渉のテーブルで新たな大陸を構想・立案するよう求められている  
全ヨーロッパへの訴えである—

「戦争を止めて下さい！ 神の名において！」。日曜正午の〔3月13日サンピエトロ広場でのアンジェラス後の〕教皇フランチェスコの叫びである。彼の言葉は明快で曖昧さを許さない：「子どもたち、無辜の人々、防御のない市民を殺害する暴虐を前にして、取るべき戦略はない：なされるべき唯一のことは、都市が埋葬地に変えられる前に、受け入れがたい武装攻撃を終わらせることだ。私は痛む心で、戦争の終わりを懇願する普通の人々の声に私の声を加える。神の名において、苦しんでいる人々の叫びを聞き、爆撃と攻撃を終わらせて下さい！ 本当に、断固として、交渉に賭けて下さい。そして、人道回廊を有効で安全なものにして下さい」。

この非人間的な侵略に対する非難とともに、戦争に対する非難、この戦争に対する、そしてあらゆる戦争に対する非難がある。それはただちに止めなければならない！ 我々は、それを本紙で幾度も繰り返した。そして、戦争を終わらせる手段は不足していない。経済封鎖から始めること。もちろん、同時に交渉を始める準備がなされなければならない。これは、現時点では手掛かりのない政治的創造性の炸裂を要求する。しかしなおそれを探り、それを発見する必要がある。電話では不十分である。必要なのは、現実的で効果的な政治的先見の明である。革新された、賢明で、長く持続するヨーロッパを構想・立案することによって、この試練から脱することができるために。

私は、〔旧〕大陸の未来と政治的秩序を再び構想・立案することの緊急性を感じている。1989年にベルリンの壁が崩壊し、ワルシャワ条約機構〔1955年、NATO（北大西洋条約機構）〕に対抗して、アルバニア、ブルガリア、チェコスロバキア、東ドイツ、ハンガ

リー、ポーランド、ルーマニア、ソ連がワルシャワで結んだ相互援助協定] が解消された。私たちは幻想を抱いた。—民主主義は東ヨーロッパの国々にとって到達の範囲内にあり、これらの国々はそれを長く希望し願ってきたのだから、それは即座に容易に達成されるだろうと。しかし、いずれの民主主義の政治的道のりも長く困難であり、また、そこではすべてが失われたように見え、逆戻りするように見える時もある。我々がボスニアで見たように、90年代の他の戦争は我々に思い出させた。—我々の大陸は、かかる意味における正確で決定的な取り決めがない限り、決して平和ではなく鎮圧されていないことを。

ワルシャワ条約機構は解消されたが、NATOは無傷で、拡大すらして、そこに残った。そして、ここで問いは増すのだが、しかし、ここはそれを扱う場所ではない。私には、この戦争がヨーロッパの防衛のようなものに向けて動いているように見える。しかし、次の問いが見落とされてはならない：誰に対して、我々は我々自身を防衛するのか？ 今日、解答は明らかであると思われる：我々は、復活するロシアの国家主義に対して、我々を防衛しなければならない。これは本当だろうか？ さらなる問いがある：いかにして我々は、真に我々自身を防衛するのか？ 我々は、核兵器の所有がさらなる武器への依存を回避するために役立つという幻想を養ってきた。そして今、我々はここにいる。一般国民と普通の人の家が最も高い対価を払う、協定上の〔合意の上での〕闘争を目撃しつつ。中世におけるように、近代におけるように、過去のすべての戦争におけるように。

戦争は役に立たない。この戦争も、それ以前のすべての戦争と同様に、そしてシリアからアフガニスタンまで、アフリカとラテンアメリカからアジアにおける闘争まで、世界のどの地域における他の戦争と同様に。我々はそれを「強度の低い戦争」と呼んできたが、それらもやはり戦争である！

この闘争が最後のものになり、民族間での共存の新たな道を探り、究明するための模範として奉仕するように、別の未来を想像し、建設する必要がある。私には他の選択肢はないように思われる：ヨーロッパは一つである。確かに、それは二つの肺を持つ。—東と西は、共通の特徴と異質の特徴を持つ—。しかしその実質は、とにかくヨーロッパである。もっとも巨視的な共通の分母〔旧約および新約聖書の神〕を引き合いに出すことによつてのみ、人はユダヤ・キリスト教のヨーロッパについて語ることができ、また語らなければならない。東ヨーロッパ出身の最初の教皇ヨハネ・パウロ2世は執拗に語った。広い連結地帯によって結合された、二つの肺を持つ一つのヨーロッパ—あたかも人の有機体〔人体〕のような。したがって、もしこれが本当なら—そしてそれは本当である—我々が共有する歴史にとって、文化にとって、大西洋からウラルまで、ヨーロッパを包囲する共通の未来を再び構想・立案することが不可欠である。

昨今は、日常的な言語が闘争、経済制裁、兵器、そして力の行使について語る。兵器の使用は私たちをどこへ連れて行くのか？ 侵略者の計画は、誇り高い強固な抵抗を予期しておらず、迅速な征服の夢は閉じられた。抵抗する者は、彼らがそうしなければならないことを理解しているが、同時に、彼らは無数の難民とともに、破滅し崩壊された国、住民の絶えたばらばらの国に自分たちがいるのを見出すことになる。

我々は諦めるべきか？ 否、断じて。しかし我々は、大陸全体を政治的な交渉のテーブルに連れてくることによって、創造的に行動しなければならない。我々は大陸全体について語っている。なぜならこの闘争は、あまりに抗しがたく一作用している力があまりにも強大で—すべての国々が複雑に巻き込まれていると感じざるをえないからである。次のことが明確にされなければならない：我々が知る 2021 年のヨーロッパはもはや存在しない。NATO の、EU の、ときどき G8 になる G7 のヨーロッパは、再構想されなければならない—誰も排除されない、すべての国の政治的、経済的、財政的および文化的包摂によって特徴づけられた、異なる政治的解決を考え出すことによって。

他の選択肢はない。さもなければ、我々は諦めて、壊れた大陸で、あるいはいつそう悪いことに、取り返しのきかない最大の破壊へとエスカレートする闘争によって、ばらばらにされた大陸で闘争することになる。我々は理解しなければならない。今日の戦争は、まず第一に、人間的レベルで無意味であること、そして第二に、経済的、政治的、社会的、文化的に無意味であることを。我々の国々のすべては相互につながっている。各々の国に他の国の市民が住んでいる；エネルギーと経済資源は、あらゆる国の間を継続的に途切れない仕方で流通している。我々は、これらの流れを止め、あるいはそれらを有効な報復の手段として使うことができると本当に考えているのか？ 我々は、他の人々への影響なしに一つの国の経済を封鎖できると本当に考えているのか？

我々には、政治的解決を考え出す義務がある。未来の人々のヨーロッパは、国際法と人権を尊重する、公正で真の政治的解決からのみ出現しうる。

「本当に、断固として、交渉に賭けて下さい」と教皇フランチェスコは言った。ミサイルや大砲に声を与える、この思慮のない愚かな猛進の中で、彼の声が唯一信頼できる声である。交渉のみが、人々の歴史が解決を見出すことへと発展してきた道具である。そして今日、一つの解決が、大陸全体の未来について心配する人々によって大声で要求されている。私は繰り返す：先見の明のある政治は、全人類社会への道のりを示すことができるだろう。なぜなら歴史は、我々にターニング・ポイントを提示しているからである。我々

はまだ収束していないパンデミックのさなかにいる；我々は確実に、誰も容赦しない環境と気候危機に直面している；我々は、人間存在に影響を及ぼす新たなテクノロジーによって新時代をもたらす画期的な変化を目撃している。そして、ヨーロッパーキリスト教のヨーロッパ、諸民族のヨーロッパ、人間主義文化のヨーロッパ、ルネサンスの、啓蒙の、自由の名において壁を消滅させたヨーロッパーは、戦争で応答するのか？しかし、実に我々は、さらに言うことができる：「武器は問題を解決するのか？」。しない。これは我々が夢見て構築するよう求められている西洋ではない。

\* 訳出に当たって、イタリア語原文の他に英訳版を参照した。

[ ] 内は訳者による。

(traduzione giapponese : Etsuko Akiba)

訳：秋葉 悦子